

令和5年第7回松山市教育委員会定例会

(横山事務局次長)

ご起立をお願いいたします。

一同礼。

ご着席ください。

(教育長)

それでは、ただいまから、令和5年第7回松山市教育委員会定例会を開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

まず、本日の会議録署名人に緒方委員を指名いたします。

ここでお知らせをいたします。

本市の教育委員会では、松山市教育委員会会議規則に基づき、傍聴人に限り入室を許可できることとしています。

本日の教育委員会定例会には、17名の傍聴を許可しておりますので、ご報告いたします。

合わせて、カメラの撮影等も許可しておりますので、申し上げます。

傍聴人に申し上げます。

教育委員会の傍聴に当たっては、議案、報告等案件に対し、賛成あるいは反対の意見表示をしたり、会議の妨害となる行為をすることは禁じられております。

規則等に基づき、非公開の議決があったときは一時的に退席していただきます。

また、規則等に違反する場合は、退席を命ずることがありますので、申し上げます。

それでは議事に移ります。

日程第1 議案第27号「松山市教育委員会が所管する手続き等における情報通信の技術の利用に関する規則の制定について」を議題といたします。

横山事務局次長から説明を求めます。

(横山事務局次長)

生涯学習政策課でございます。

よろしくお願いいたします。

資料の1ページをお願いいたします。

議案第27号「松山市教育委員会が所管する手続き等における情報通信の技術の利用に関する規則の制定について」ご説明いたします。

この規則は、教育委員会が所管する申請や届出などの手続等について、情報通信技術の利用を可能とすることにより、市民の利便性や事務効率の向上を図るために定めるものです。

具体的には、規則等に、書面で行うこととされている手続等について、その規定に関わらず、オンラインで行うことができるようにするもので、本市では、「松山市デジタル化推進方針」を策定し、可能な手続の原則オンライン化などを進めています。本年10月には、新たな電子申請システムを導入予定となっているなど、今後もデジタル化を推進していく中で、教育委員会としても、こうした動きに対応していきたいと考えています。

なお、今回、制定する規則につきましては、松山市規則の規定の例によるとしておりますので、お手元の資料2ページから4ページに当該規則を、また、5ページから8ページに関係条例を参考にお示ししておりますので、ご参照いただけたらと思います。

以上で説明を終わります。

ご審議のほど、よろしくをお願いいたします。

(教育長)

以上で説明が終わりました。

この件に関して何かご意見等ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、特に意見等ないようございませうから採決をいたします。

議案第27号「松山市教育委員会が所管する手続き等における情報通信技術の利用に関する規則の制定について」を原案どおり決定することについてご異議ございませんか。

(一同)

異議なし

(教育長)

ご異議なしと認めます。

よって、議案第27号は原案どおり決定いたしました。

次に、日程第2 議案第28号「令和6年度使用小学校教科書の採択について」を議題といたします。

井上学校教育課長から説明を求めます。

(井上課長)

学校教育課井上です。

よろしくお願いいたします。

それでは、議案第28号「令和6年度使用小学校教科書の採択について」説明をいたします。

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条及び義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律第13条に基づき、令和6年度使用小学校教科書について、本定例会で審議いただき、採択を求めるものです。

資料9ページをお願いします。

教科書は、いずれも教育基本法や学校教育法の理念や目標等を踏まえ、文部科学大臣の検定に合格したものです。

各種報告書については、調査・研究していただくために、事前にお渡しさせていただいていますが、改めて確認させていただきます。

まず、1つ目は、調査部会による報告書です。

資料作成員は、各教科において、特に優れた知見を持つ教員にお願いしました。

実際の調査では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされているか」「問題解決的な学習や体験的な学習等、多様な学習につなげることができるような工夫がされているか」などの観点について、報告書をまとめています。

2つ目は、市内の小学校において、全ての教科書について調査研究を行い、学校ごとに報告書をまとめています。

3つ目は、教科書採択に関する懇話会の報告です。

本会では、校長及び教員並びに保護者の方や、その他有識者の方が委員として集まり、全ての種目についてご意見をいただき、事務局がまとめたものです。

4つ目は、教科書展示会におけるアンケート結果です。

これは、展示会場において、教科書を閲覧した一般の方からのアンケートを回収して、事務局がまとめたものです。

以上で、採択及び各種報告書についての説明を

終わります。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

(教育長)

それでは、採決する教科書の審議を行いたいと思います。

本日まで、それぞれの委員が実際の教科書を閲覧した他、先ほど説明がありました調査部会や学校からの報告書、懇話会の記録、教科書展示会でのアンケートなどを参考に研究を重ねられてきたと思います。

審議の方法は、教科ごとに1件ずつ審議し、まず各委員のご意見や感想を伺い、その意見などを踏まえ、採択する教科書を採決したいと思います。

採決方法は、まず挙手による採決とし、1回目の挙手採決の結果、出席者の過半数の3票以上を取った教科書がある場合は、その教科書を採択いたします。

1回目の挙手採決の結果、過半数に満たない場合で、上位2社に絞れる場合、すなわち、採決結果が2・2・1の場合は、その2社を対象に2回目の無記名投票を行い、過半数を取った教科書を採択いたします。

1回目の挙手採決の結果、過半数に満たない場合で、上位2社に絞れない場合、すなわち、採決結果が2・1・1・1、または、全て1の場合は、得票があった教科書を対象に無記名投票をいたします。

2回目の投票で、上位2社に絞れる場合は、その2社を対象に3回目の投票を行い、過半数を取った教科書を採択します。

2回目の投票で、上位2社に絞れない場合は投票を繰り返し、最終的に過半数を取った教科書を採択したいと思います。このような採決方法でよろしいでしょうか。

(一同)

異議なし

(教育長)

それでは、そのような形で進めさせていただきます。

それでは、教科書目録の記載の順序に沿って進めてまいりたいと思います。

まずは、国語でございますが、各委員さんのご意見を伺っていきたくと思いますが、国語の教科書について、委員さんのご意見をお願いいたします。

(緒方委員)

具体的な国語の教科書に言及する前に、国語教育について少しお話をさせてください。

国語教育は、過去に文学教材の読み取りに重心が置かれ、微に入り細を穿つような授業が見られたことがありました。

国語教育は、子どもの総合的な言葉の力を育てるのが本来の目的であり、文学教材のみを教えることでは、その目的は達成できません。

文科省でも、言葉の教科としての国語ということを打ち出しております。

それならば、文学教材の授業は軽視されていいのかというと、それは行き過ぎた考えだと思います。

国語が好きになるのは、心に残る文学作品に出会ったことがきっかけになることが多いのではないのでしょうか。

教科書を選ぶに際し大切なことは、文学教材に重心が置かれているかどうかとかそういうような二者択一ではなく、言語活動を通して、子どもたちが将来に渡って、必要な言葉の力を身につけることにあります。

また、今回の教科書採択では、デジタルへの対応という点も重要なポイントではないかと思えます。

そのような観点から、バランスのとれた国語の教科書を選ぶことが大切だと思います。

まず、それぞれの学習の進め方についてどのように書かれているかということですが、東京書籍は、教材ごとに学習の流れが示されていました。

教育出版は、学ぶ内容が最初に整理されていません。

光村図書は、学ぶこと、前学年で学んだこととの対比で、国語の学びが見渡せるようになっていました。

3社とも、どのように国語の学習を進めていくかを工夫して説明しています。

保護者の方、そして子どもからも、国語の勉強の仕方がわからないという声をよく聞きますが、教材だけを充実させるのではなく、学び方を学ぶ

という各教科書会社の国語教育に対する姿勢が分かりました。

QRコードは3社ともあり、デジタルへの対応があります。

その中で、教育出版は、教材に関して、すぐに調べに行けるようにと考えられていました。

また、思考ツールが教科書に載っており、松山市が使っているロイロノートとも繋がるのではないかと思います。

教科書から読書を広げていくのも大切なポイントです。

光村図書は、物語教材が親しみやすい物語や童話が豊富で夢が広がる内容が多い、そして、この本を読もうということで、読書の広がり期待されます。

一方、教育出版は、約540冊にも及ぶ図書紹介コーナーを設けていました。

松山との関連についてですが、教育出版は、松山出身の田丸さんの作品が載っていました。

さらに、ショートショートを作ろうという教材があるのも魅力でした。

また、6年生には、付録ですが、正岡子規についても扱われています。

言語活動が充実しているのは教育出版、文学教材の取扱いが充実しているのは光村図書という評価が学校からの報告書に伺えました。

両者とも特色は出しつつも、言語の教科としての国語教育を十分意識した編集になっていると思います。

そして、今、タブレットが使われるようになっておりますが、子どもたちが学校に持っていくものが重くなっている問題があります。

可能であるならば、ページ数の多い教科書は教育出版のように上下の分冊が望ましいと考えます。

以上、総合的に判断しまして、各方面でバランスの取れた教育出版が良いのではないかと私は思いました。

(教育長)

緒方委員から教育出版ということでご意見がありました。その他、他の教科書を推薦されたりとか。

(河原委員)

学習指導要領では、国語科の目標として「日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする」、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」と、それぞれに関連して学習すべき内容が示されています。

これらの目標と学習すべき内容をどれほど促進し得るのかという観点から見ると、いずれの教科書も学習指導要領をよく踏まえて執筆されていると思いましたが、光村図書のものが優れていると評価しました。

最初に、人との関わりの中で伝え合う力や思考力や想像力を養うという目標についてですが、光村図書のものでは、特に2年生以降の文章の読み解きを扱うところで、読み解き学習をリードする「問いと目標」を示した上で、「ふかめよう」という標題で読解を深めるための具体的な問いを示し、「ひろげよう」という標題で話しかけ方を例示しながら、児童同士の対話を促しています。

教科書に沿って先生と児童が授業に取り組む中で、先生自身による特段の発案や工夫をそれほど必要とせず、児童が自ら文章内容への考察と他者との対話に入り込んでいけるようにうまく構成されています。

他社のものにも同様の工夫が見られましたが、光村図書のように、読み解き学習をリードする「問いと目標」や、話しかけ方の例示までは記載していませんでした。

国語の特質を理解し適切に使う資質を養うという目標については、話や文章から、そこに含まれている情報を正しく取り出して整理したり、情報を整理して明確に表現したりする能力の育成が求められていますが、そういった点でも光村図書のものはよく工夫されている印象です。

例えば、3年生の上では、論説文の「こまを楽しむ」が掲載されていますが、その手前に練習用として短い論説文の「文様」が掲載されており、そこで論説文から主題を読み取る方法論として、「問い」と「答え」を本文から読み取る練習が行えるようになっています。

6年生のものにも、論説文の「時計の時間と心の時間」の手前に練習用として「笑うから楽しい」が掲載されており、文章の内容から主題や主張の骨子等を的確に取り出す練習が事前に行えるようになっています。

教育出版など他社のものにも同様の工夫が見られますが、提示された読み取りの方法論が児童には少し分かりにくい印象がありました。

他にも、学習指導要領の中で取り上げられている語彙指導や言語文化に関する指導、漢字指導の点では、各社ともそれぞれ工夫されており、甲乙付けがたいと思いました。

なお、調査部会の報告書の所見を見ますと、光村図書の教科書は「話す、聞く、書く、読む等の基礎的・基本的な知識・技能を意識して構成され、習得が図りやすい」、「話し合い活動に学校生活で起こりうる事例を取り上げ道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てやすい」などと評されており、教育の目的と教科の目標・内容との関連で高い評価が得られています。

以上の点から、総合的に光村図書の教科書を推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

河原委員から光村図書を推薦するというご意見がございましたが、あとその他何か。

(田中委員)

今お2人からありましたけれども、光村図書は、2年生の「スーホの白い馬」とか、3年生の「ちいちゃんのかげおくり」、それから6年の宮沢賢治の「やまなし」など、長い間使われている定評のある物語や、説明的文章が多く掲載されていて、充実した教科書だと思います。

学校からの報告書でも、その点を評価されている意見がいくつもありました。

ただ、光村図書は、5・6年がそれぞれ1冊になっています。

緒方委員からもありましたが、分厚くて大変重いので、子どもの持ち運びの負担や教室での使用を考えると、どうだろうかと思います。

合本になっているというメリットもあります。

年間を通して学習することとか、それから他教科の関連で単元を入れ替えて指導するということはできるのですが、選ぶとなると、悩んでいるところではあります。

(教育長)

ありがとうございました。

他ご意見等よろしいでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、意見もないようでございますので、採決をしたいと思います。

まず、最初に、教育出版に賛成の委員の方は手を挙げてください。

—挙手4名—

(教育長)

次に、光村図書。

—挙手1名—

(教育長)

それでは、結果として、教育出版が4票ということで、国語については教育出版を採択することに決定いたしました。

続きまして、書写に移りたいと思います。

書写について、何かご意見等ございませんでしょうか。

(西本委員)

学習の基本である書くことを学ぶ書写、特に学び始めの1年生にとって分かりやすく、また楽しく学ぶことが大切なのではないかと思います。

書写の3社の教科書を見比べてみまして、私は教育出版が良いと思いました。

まずは、良い姿勢を保つための工夫について、教育出版社では、「こしぴん」「足ぺた」「ぐう一つ」など、良い姿勢の合言葉として示しております。

これは、タブレットやスマートフォンなどの多用によって、どうしても前かがみの姿勢になりがちな現在の子どもの体幹を、美しい文字を書くために、このような覚えやすくりズミカルな言葉を繰り返し学ぶことで、自然と姿勢も美しくなるのではないかなと、いい表現方法だなと感じました。

また、鉛筆の持ち方に関しても、「ぱちぱち」「ころころ」「すうっ」「とん」、こちらも心で

唱えながら、正しく持てるような工夫がされていて、書くことを楽しく始められているのではないかなと思いました。

またさらに、年賀状や手紙の書き方、分かりやすいノートの作り方や新聞のポスターのレイアウトなど、生活の場面に応じた書く活動を取り上げておきまして、生活に生かせる書写の学びができるようになっていと感じました。

また、6年生の教科書では、子規の石碑が記載されておきまして、こちら子どもたちにとったら、親しみやすく感じるのではないかなと思いました。

以上のような理由から、私は教育出版社がいいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他ご意見等ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

私も発言させていただきますが、教育出版を推薦させていただきたいと思います。

調査部会、懇話会、学校報告書では、それぞれ3社とも、書く姿勢であるとか、筆や鉛筆の持ち方、用具の置き方など、書写に必要な基本的なことは評価されておきまして、遜色がないのかなというふうに思いましたが、そうした中で光村については、1年生での鉛筆の持ち方の表示が大きくなりましたが、右手がアップの写真の中で、親指の位置が少し上過ぎるのではないかなと、正しい持ち方からすると、若干違和感を覚えたということがございました。

また、教育出版は、全体的に実写が多く使われておきまして、見やすいなと思ったこととか、正岡子規の句や句碑の写真を教材として使われているということで、ふるさと教育を進める松山市にとっては素晴らしい教科書であるなと思って、私自身も教育出版の支持をさせていただいております。

それでは、他ご意見もないようでございますので、採決をさせていただきますが、教育出版という方は挙手をお願いいたします。

—挙手5名—

(教育長)

ありがとうございました。

それでは、教育出版が5票ということで、書写につきましては教育出版を採択することに決定をいたしました。

続きまして、社会に移りたいと思います。

社会について、ご意見等ございませんでしょうか。

(田中委員)

社会科は、3社の教科書が出版されています。

3社とも、それぞれ子どもが楽しみながら学べるよう工夫があり、SDGsや防災教育など、現代的な課題にも対応しています。

デジタルコンテンツも豊富で使いやすいという印象がありました。

その中で、私は東京書籍の教科書が良いのではないかと思います。

理由は4点あります。

まず、学習の流れが明確にされているということです。

構成が全て見開きごとに、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の項目となっていて、子どもたちにとって分かりやすいですし、学習の切り替えもできます。

どの出版社も問題解決の学習の流れとなっていました。東京書籍版が、項目の表し方などで最も分かりやすいように思いました。

また、見学の仕方や様々な資料の読み取り方など、必要な技能的な内容を紹介する学び方コーナーが適宜配置され、調べたりまとめたりすることが主体的にできるよう配慮してあります。

QRコードも充実していて、実際に見てみましたが、「学習のはじめに見てみよう」という動画では、単元全体の目当てを立てやすく、学習意欲を高めることができました。

全体的に東京書籍版は、子どもの主体的な学びを支援している印象がありました。

2点目は、学習を深いものにする鍵となる社会科の見方、考え方についてです。

社会科では、「広がり」「時間」「事柄や人々」といった3つの見方と、「比べる・分け

る・まとめる・つなげる」といった考え方を働かせて、より深い学びにすることを学習指導要領は重視しています。

この点について、子どもに親しみやすいアニメのドラえもんで、それぞれの見方・考え方のポイントを示し、子どもに意識させるような工夫がありました。

3点目は、愛媛県や松山市に関する資料が他の教科書に比べて格段に多いことです。

特に、4年生の「きょう土の伝統・文化と先人たち」の中の小単元、「残したいもの 伝えたいもの」の全てが、愛媛県の東中南予の伝統や文化が題材となっています。

子どもたちの学習への興味・関心が高まりますし、教科書に取り上げられていることで、郷土への誇りに繋がるものと思います。

松山市については、道後温泉本館・伊予万歳が取り上げられていました。

道後温泉について、明治以降の各時代の本館の写真が掲載されていましたが、令和の写真は、今行われている改修の写真でした。

貴重な文化財を保存修理し、よりよい形で引き継いでいこうとする人々の思いに触れることができる良い教材になっていると思います。

最後に、5・6年生がそれぞれ2冊の分冊構成になっていることです。

各学校からの報告書でも多く評価されていました。

他の出版社のものは、5・6年はそれぞれ1冊で、私も持ってみて重いと感じました。

子どもの負担ということを考えても、東京書籍版が良いのではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他ないでしょうか。

(河原委員)

学習指導要領では、社会科教育の目標に関連して、社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して総合したり、国民の生活と関連付けたりするものの見方や、単元ごとに学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の意味を考え表現する活動が重視

されています。

恐らく、完成したスタティック、静的な知識としてではなく、日常生活の中から生まれる素朴な関心と結びつけながら、健全で客観的な社会認識を形成するダイナミック、動的な学習プロセスとして社会科教育を捉えようという趣旨だと思います。

こういった観点から、各社の教科書を比較し、日本文教出版のものが良いと考えました。

日本文教出版の教科書で目に付くのは、地理的分野、公民的分野、歴史的分野、どの分野の教科書も、すべての単元が、「身近な材料を出発点に疑問点を取り出し学習問題を設定する」「学習問題に関する検討から学習の計画を立案する」「現地情報や関係者証言や資料や想像図を通して調べた結果が明らかになる」、最後に、知識のまとめが完成するというプロセスが、編集上、明確となるように工夫されていることです。

最後に得られる知識のまとめには、事象間の相互関係、経過、比較、総合等の理解や日常生活との関係の認識が含まれています。

こういった工夫は、社会科の教育をダイナミックな学習プロセスとして捉えるという趣旨を、児童にも分かりやすく展開したものだと考えます。

他社の教科書にも同様の工夫が見られますが、日本文教出版のものと比較すると、学習計画を記載していない単元が多かったりする等、編集上、学習のプロセスが分かりにくい印象でした。

また、日本文教出版の教科書では、どの分野の教科書も、本文の考察部分は白色の地、事実部分は淡黄色の地と色分けし、児童が学習しやすいように細かい工夫も加えられています。

さらに、章末に「未来につなげる」というコーナーが用意され、学習内容とSDGsとの関連に触れられている点も時流に適すると思いました。

なお、調査部会の報告を拝見しますと、日本文教出版と東京書籍のものでは甲乙つけがたい評価となっていました。

私も、東京書籍の教科書も良いものだと思いますが、先ほど申し上げたとおり、内容面や編集上の細かい工夫の面で、日本文教出版の教科書を適するものと評価しました。

(教育長)

ありがとうございました。

他にご意見ございませんですか。

今お二方から東京書籍、それから日本文教出版の推薦をいただきましたが、他ないですか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、意見もないようでございますから、採決をいたしたいと思います。

まず、東京書籍に賛成の委員の方は挙手をお願いいたします。

—挙手4名—

(教育長)

日本文教出版。

—挙手1名—

(教育長)

東京書籍4票、日本文教出版1票ということで、社会につきましては東京書籍を採択することに決定をいたしました。

続きまして、地図について、委員さん方のご意見をお願いします。

(田中委員)

地図帳は、3年生から6年生までの4年間という長いスパンで使用しますので、3年生にも分かりやすいということが、必要ではないかと思えます。

帝国書院版では、巻頭で3年生の学習として、地図の成り立ちや方位、地図記号などについて、丁寧で分かりやすく解説してありました。

また、3年生を念頭に広く見渡す地図として、細かい地名などを省いて、その地域の産物などのイラストを入れた親しみやすい地図を6ページに渡って載せていることも、発達段階に配慮されていると感じました。

地図には多くの情報が組み込まれており、見やすいか、読み取りやすいかが、大きなポイントになるかと思えます。

学校からの報告書では、地図の色合について賛否があったのですが、私自身は、帝国書院版は分

かりやすく、読み取りやすいと思いました。

地図それぞれのタイトルと縮尺が、左上の位置に統一してあることも大変使いやすいのではないかと思います。

また、帝国書院版では、どの縮尺の地図も、山地が立体的に見えるように陰影が付けられています。

等高線での色分けでは難しい、地形の高低差などの特徴が、小学生にもよく分かるように配慮されています。

世界の地図に関しては、主要な国名、首都名、アメリカ合衆国の州名に英語表記が付けられています。

文学や音楽の舞台になったところも示されているので、社会科だけでなく、外国語や国語、音楽でも活用できるのではないかと思います。

自然災害や防災に関するページが充実しており、被害の様子だけでなく、災害への様々な取り組みの解説の他、防災マップ作りにも触れられていました。

防災に関しては、その必要性から、様々な教科で行うことが求められていますので、その手がかりの1つになるのではと期待しています。

また、今回の改定で、SDGsについてのページが新設されました。

SDGsの関連資料には、SDGsを表すアイコンが付けられていて、子どもたちが意識できるような配慮もありました。

学校からの報告書でも、豊富なQRコンテンツがあり、活用法が多様に考えられるというものもありました。

主体的な学びに繋がることが期待できます。

以上のことから、帝国書院の地図帳が適切ではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

帝国書院を推薦されるということですが、他にご意見ございますでしょうか。

(西本委員)

私は、地図帳の役割として、社会科の教材としてはもちろん、まだ行ったことのない土地への興味を掻き立てること、その役割も1つあったなど思いまして、その点も踏まえまして、私は東京書

籍がいいなと思いました。

まず、これは帝国書院でもそうであるかと思いますが、巻頭で方位磁石や地図記号、縮尺など地図を読み取るために必要な知識が大変分かりやすく記載されていて、それは長期間に渡って使用する中で、どの学年でも簡単に確認することができるものだと思います。

また、色使いに関して、私は東京書籍の方がはっきりとした色使いで見やすく、文字も読み取りやすいと感じました。

イラストや写真などもたくさん使われておりまして、その地に行ってみたいと思うようなレイアウトがよく見られたなと感じました。

各ページに子どもたちのキャラクターが登場しますが、その子どもたちが吹き出しでその地形の特色などの問いかけなどをしていて、それが子どもたちにとって興味を持って進められる工夫がされているのかなと思いました。

また、ユニバーサルフォントを使用されているので、可読性・視認性また判読性に優れているのではないかと、どの立場の人が見ても、長く使える地図帳であるのではないかなと思いました。

これらの理由から私は東京書籍がいいなと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

東京書籍を推薦されるご意見ですが、他の意見はないですか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、ないようでございますから、採決をしたいと思います。

まず最初に、帝国書院に賛成の方は挙手をお願いいたします。

—挙手4名—

(教育長)

東京書籍。

—挙手1名—



(教育長)

帝国書院が4票、東京書籍が1票ということで、地図については帝国書院に決定をいたします。

続きまして算数に移りたいと思います。

委員さんのご意見をお願いします。

(緒方委員)

算数は6社の教科書がありました。

全ての教科書において、学習の進め方が記載されております。

また、プログラミング学習についても、取り上げられておりました。

このうち4社はスタートブックがあり、入学したばかりの児童への配慮が感じられました。

さらに3社は、中学校対応を意識したものになっており、算数の初めと数学への繋がりがあって、こういうところに教科書会社が力を入れているのは、幼稚園・保育園と小学校の繋がり、さらに、小学校・中学校の繋がりという観点からして、大変良いと思いました。

QRコードはどの教科書にもありましたが、何のQRコードか一見見てわからない教科書もあり、内容以前に使いやすさという点で配慮が欲しいと思いました。

懇話会の中では、日本文教出版に注目度が高いようでしたが、ディスカッションする取組が難しいという評価もありました。

その一方、現在使われている啓林館に対しては、学校から安定した評価がなされていました。

その啓林館の内容をしてみると、QRコンテンツは、動かす、動画、問題等の5種類のコンテンツがあります。

そして、何よりもいいなと思ったのは、ICTを活用した効果的な授業展開が教科書の紙面からサポートされているところです。

具体的に申しますと、子どもたちが考えている問題の横に内容が一目で分かるイラストとタイトルを入れたQRコードがあります。

デジタル化というと新しいものという印象がありますが、啓林館は数学的な学びを実現するための手段という姿勢を明確に打ち出しており、算数の学びが深まる教科書となっています。

さらに、学校からの報告で、啓林館は若い先生

が使いやすいといった評価がありました。

教材研究の難しい教科書は、先生方に負担をかけます。

また、先生が伝えやすい教科書は、子どもたちも理解しやすい教科書とも言えるのではないのでしょうか。

以上のことから総合的に考えて、私は啓林館がいいのではないかと思いました。

(教育長)

ありがとうございました。

啓林館を推薦するというご意見でございますが、他ご意見ないですか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、意見もないようでございますから、採決をいたします。

啓林館に賛成の委員は挙手をお願いいたします。

—挙手5名—

(教育長)

ありがとうございました。

啓林館5票ということで、算数につきましては啓林館に決定をいたしました。

続きまして、理科に移りたいと思います。

理科についてのご意見を伺いたいと思います。

(河原委員)

学習指導要領では、理科教育として、自然を愛する心情を育むとともに、自然の事物に親しむ中で興味・関心をもち、そこから問題を見出し、予想や仮説を基に観察、実験などを行い、結果を整理し、その結果を基に、自然の事物の性質や規則性などを把握する資質・能力を育成することが重視されています。

いずれも、よくこの趣旨を踏まえて執筆されていると思いましたが、特に啓林館の教科書がよく工夫され、児童が問題設定から結論までのプロセスを無理なくたどれるように書かれていると思いました。

啓林館の教科書では、例えば6年生ののを見ると、各単元が一定の進行パターンで構成されていることが分かります。

どの単元も、「問題をつかもう」「問題」「予想」「計画」「観察・実験」「結果」「考察しよう」「まとめ」「もっと知りたい」の順で構成されています。

「問題をつかもう」で日常的に目にする自然現象を提示する、「問題」で問題発見を行う、「予想と計画」で原因等の予想から実験計画を立案する、「実験」で実際に実験器具を用いて実験を行う、「結果」で実験結果をまとめる、「考察しよう」で実験結果と予想を結びつける、「まとめ」で自然現象の仕組みを明らかにし問題に対する結論を得る、「もっと知りたい」で得られた結論から次の単元の問題へとつなげる、という展開の仕方です。

これは、学習指導要領の趣旨を丁寧に辿っており、児童であっても、身近な自然現象から、その性質や規則性の発見、さらなる関心へと無理なく導けるように構成されています。

他社のものも同様の工夫がなされていますが、啓林館の教科書の「もっと知りたい」に当たる部分がなく、次の単元への繋げ方が少し弱いように思いました。

啓林館の教科書では、さらに、各章の終わりに、それぞれの章に含まれる全ての単元のまとめとして「まとめノート」が用意され、各単元を総合的に振り返られるようになっています。

また、得られた結論を関連する自然現象に応用するための考察が「活用しよう」の標題で示され、工業製品や社会事例等における応用が「くらしとのリンク」の標題で紹介されており、児童の自然科学や科学技術への関心を触発するように工夫がなされています。

こういった点でも、他社のものより丁寧に作り込まれていると思いました。

なお、調査部会の報告を拝見しますと、いずれも甲乙つけがたい評価となっておりました。

総合的に勘案しまして、啓林館の教科書を推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他ないでしょうか。

(田中委員)

理科は、どの教科書も問題解決の流れがスムーズで、掲載されている図表や挿絵、写真なども分かりやすいものでした。

デジタルコンテンツが豊富でSDGsやプログラミング教育などへの対応も行われていました。

その中でも、私は学校図書の教科書が良いと考えています。

まず、子どもたちが意欲的に学習に取り組む手立てが工夫されていることです。

付けたい力を「発見モグラ」とか「予想バード」などという「理科モンスター」で表すことで、ゲーム的な要素で、子どもたちが親しみを持ってその力を捉えることができます。

単元の初めには、3つのモンスターを挙げて、付けたい力を意識して学習を進めるようにして、単元の終わりには、できるようになったか振り返りを行い、成長を意識できるようになっていました。

見通しを持って主体的に問題解決を行い、振り返りをすることで、成長を実感できるように考えられています。

次に、愛媛県や松山市に関する資料が最も多いのも、学校図書版でした。

市内にある地層の写真や、川の写真、防災関連のものなどが掲載され、調査委員会や学校からの報告書からも親しみやすいとか、関心が高まるなどの評価が多くありました。

もちろん子どもにとって効果的ですが、指導する先生方にとっても、教材を考える手がかりになります。

6年生の資料でノーベル物理学賞を取った真鍋さんが取り上げられているのも印象的でした。

最後に、SDGsについてですが、どの単元の学習がどの目標に繋がっているのか、全ての学年で裏表紙に記載されていました。

よく目立ち、教科書を手取る度に目に入ります。

子どもたちが、理科の学習と結びつけてSDGsに関心を持つことに繋がると思いました。

以上のことから、学校図書の教科書が良いのではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございました。  
他にご意見ないでしょうか。

(一同)  
なし

(教育長)

私も学校図書と、それから大日本図書で悩みました。

と申しますのも、大日本図書の6年生で「生物と地球環境」という項目があるのですが、その3の「水を通した生物どうしの関わり」という単元の中で、資料2の「りかのたまてばこ」という記述があったんですけども、その記述に「1日に必要な水」という記述がありましたが、これが松山市の節水型都市づくりの示す目標数量とほぼ一緒であること、理科の授業ではございますが、この授業を通して、松山市の水事情を、生徒だけでなく、先生方にも知っていただく良い機会でもあるかなど。

また、SDGsの関連もあるので、この大日本図書を推薦かなと考えたんですけども、最終的には、科目が理科であるということに着目し、学習課題が徹底されて理解しやすい点と、何と申しましても、石手川ダムを始めとする地域題材が数多く教材として取り上げられる点を高く評価して、学校図書とさせていただきます。

2つの他にご意見ないですね。

(一同)  
なし

(教育長)

ではないようでございますので、採決をいたします。

まず、啓林館に賛成の委員の方、挙手をお願いします。

—挙手1名—

(教育長)

学校図書に賛成の方は挙手をお願いします。

—挙手4名—

(教育長)

それでは、啓林館が1票、学校図書が4票ということで、理科につきましては学校図書に採択すると決定をいたしました。

続きまして、生活科について行います。

生活科について、ご意見をお伺いしたいと思いますが、いかがですか。

(緒方委員)

生活科は6社の教科書がありました。

生活科を考えたときに、幼稚園や保育園から入学してきた子どもたちを学校生活にいかに誘うか、そして、3年以降の理科や社会科にいかに繋げていくかが大切なのではないかと思います。

その点では、6社とも、幼稚園、保育園から小学校に繋ぐことが十分意識されていると感じました。

QRコードについては6社全て備えられていましたが、ここでもやっぱり何のコードか一目で分からないものがあったり、もう少し充実させたりしてもいいのではないかといいものもありました。

その中で注目したのは、東京書籍や光村図書は安全への配慮という内容のものがありません。

また、1年生からタブレットを使いますが、タブレットを使う約束ということも光村図書は意識しております。

懇話会の評価も光村図書が高いように感じました。

また、光村図書のアニメは親しみやすく、紙面がまとまり読みやすいという評価がありました。

低学年の子どもたちにとっては、大事なことはないかと思います。

また、振り返りが意識されており、これはその他の授業、今後の授業でも大切なことではないかと思います。

以上のことから考えて、私は光村図書が良いのではないかと思います。

(教育長)

光村図書を推薦されるご意見ですが、他ご意見ないですか。

(河原委員)

学習指導要領では、生活科の教科目標は「具体

的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための「資質・能力」を育成することとされています。

また、教育課程として、「幼児期の教育と小学校教育とを円滑に接続するという機能をもつ」ともされており。

この観点から見ると、いずれの教科書も、児童個人によって、受けてきた幼児期の教育や体験は異なる訳ですが、どのような児童も小学校教育にスムーズに移行できるように、非常に配慮して制作されていると思いました。

明るい色調の紙面で、写真やイラストが多く、面積を占め、文字量を抑えて、幼児向け雑誌に近い装丁になっており、小学1年生、2年生でも、教科書を読むというよりは絵本に近い感覚で手に取れるように工夫されていると思いました。

その中でも、啓林館の教科書は、掲載するイラストや写真の一つ一つのサイズを抑えつつ、ページあたりの数を増やすようにして掲載しています。

それらのイラストや写真及びそこに付せられた一言のセリフを見ていくと、学ぶべきこと・知っておくべきことが迎えられるようになっています。

大きなイラストや写真であると、その隅々まで視線を動かさないと情報が読み取りにくく、小型のイラストや写真であれば一目で必要な情報が全部読み取れるだろうと考え、幼児期に近い児童の注意力の程度を配慮して制作されているのではないかと思います。

また、もう一つ、東京書籍の教科書は、幼児用の絵本のように絵の中を児童に目で追わせることで、言葉よりも絵や写真から何かを発見させることに主眼を置いたのではないかと思います。

先生方がうまく誘導することで、遊びながら児童の発見や学びを引き出せる可能性があるのではないかと思います。

それぞれに考え方があり、調査部会の報告を拝見しても、どちらかをよしとするのが難しい評価となっております。

最終的には、学習指導要領にある「幼児期の教育と小学校教育とを円滑に接続する」点を特に重視しまして、啓林館の教科書を推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

啓林館を推薦するということですが、他はないですか。

(田中委員)

私が、最も印象深かったのが東京書籍の教科書です。

まず、幼児期の教育と小学校の教育を円滑に接続するためのスタートカリキュラムをどう扱っているかを1つのポイントとして見てみました。

東京書籍上巻の巻頭にある「がっこうせいかつすたあと」の学習では、次の単元よりもページが小さくて、特別感のあるつくりになっていました。

また、教室・友達・学校と関わる人と場所を徐々に広げていく構成になっていて、子どもが安心して取り組めるような配慮もありました。

「つながる・ひろがる」のページでは、国語や算数、図工などとの関連を示した活動例も豊富に掲載されていて、わくわく感を持つこともできると思いました。

とても丁寧にスタートカリキュラムを扱っています。

調査部会や各学校の報告書にあったのですが、活動の目当てに付けられている評価の3観点を示す記号が指導に役立つということでした。

知識・技能は感嘆符、思考・判断・表現は疑問符、主体的に学習に取り組む態度はハートマークです。

この記号は、指導と評価ということを意識して授業を実施するのに役立つと思います。

また、目指す力をイラストや吹き出しで見える化したり、作品例で具体的に示してあったりするので、子どもも教員にとっても、ゴールや学びのイメージを持ちやすくなっています。

さらに、具体的な掲示物や板書などが描かれていて、どのように生活科で教室環境を整えればいいのか、大変参考になります。

特に経験の少ない先生にとっては、授業作りに役立つのではないかと思います。

学習活動のイラストや、子どもたちの写真で、タブレットや電子黒板など、ICT機器を使っている様子、また、協働的に学んでいる様子が多く掲載されていて、今の教育の流れに合っていると

思いました。

QRコンテンツも豊富で、子どもたちのもっと知りたいという思いに応えることができると思っています。

ダイナミックで生き生きとした写真が多いというところも良いと思いました。

子どもの豊かな表情、動植物の大きくて美しい写真は、学習意欲を高めることに繋がるのが期待できます。

下巻の巻末の活動便利手帳の「のりものにのろう」で松山の市内電車の写真が使用されていました。

郷土関係のものが掲載されている東京書籍の教科書が良いと思っています。

(教育長)

ありがとうございました。

東京書籍を推薦するというご意見ですが、他ないですか。

(緒方委員)

発言の訂正をいたします。

私、6社と申し上げましたが、生活科が7社ありましたので、7社と訂正させていただきます。

(教育長)

それでは、意見もないようでございますから、採決をいたします。

まず最初に、光村図書に賛成の方は挙手をお願いします。

—挙手2名—

(教育長)

続きまして、啓林館に賛成の方。

—挙手1名—

(教育長)

次、東京書籍に賛成の方。

—挙手2名—

(教育長)

それでは、光村図書が2票、東京書籍2票、啓

林館1票ということで、ただいま読み上げた3社につきましては、いずれも過半数を超える状況となっておりますので、無記名による投票を行いたいと思います。

事務局は、投票用紙の配布をお願いいたします。

光村図書と東京書籍のうち、採択したい教科書1社について、丸印をご記入いただき、記入が終わりましたら、用紙を裏返して机の上に置いてください。

(投票用紙に記入)

(教育長)

では、記入が終わったようなので、用紙を回収いたします。

事務局は回収をお願いいたします。

(投票用紙を回収)

(教育長)

それでは、緒方委員、立会いをお願いいたします。

(集計)

(教育長)

集計結果を報告いたします。

東京書籍3票、光村図書2票となりました。

したがいまして、生活科につきましては東京書籍と決定をいたしました。

続きまして、音楽に移りたいと思います。

委員の方からご意見を伺いたいと思います。

(西本委員)

音楽につきましては、2社ございましたので、そちらを見比べて考えてみました。

まず私は、教育出版がいいなと思います。

教育出版は、この題材で何を学ぶかという学習のねらいが児童にとって分かりやすい言葉で示されておりまして、画面構成についても、ページごとに楽譜や解説、写真、挿絵などをバランスよく編集されていると思いました。

また、鍵盤ハーモニカやリコーダーの分かりやすい記載にも特徴があると思ひまして、鍵盤ハー

モニカは実物大の写真が使われていて、指使いが開くだけで分かりやすく各單元ごとに確認することができます。

また、リコーダーでは巻末に折込のページとして、指使いの一覧を載せておりますので、楽譜を見ながら、そちらの指使いを一緒に確認することが出来て、音楽は苦手な子は苦手なところがあると思いますので、大変見やすく分かりやすく学習ができるかなと思いました。

また、歌唱曲に合わせて載せている写真が大変美しく、その情景を想像しながら歌うことの楽しさを教えてくれるような感じを受け取りました。

さらに、地域の伝統音楽である伊予節や西条祭りが記載されておりましたので、そちらもより親しみを感じられるのではないかなと思いました。

また最後に、表紙を見比べてみましたが、教育出版の方のイラストが大変温かみがあって、優しい気持ちでもって学習に臨める、そのような印象を受けました。

そのような理由から、私は教育出版の教科書がいいなと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

教育出版を推薦されるご意見でございますが、他にご意見ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

では、意見もないようでございますので、採決をいたします。

教育出版に賛成の委員は挙手をお願いいたします。

—挙手 5名—

(教育長)

ありがとうございました。

教育出版 5 票ということで、音楽科につきましては教育出版を採択することに決定をいたしました。

続きまして図画工作に移りたいと思います。

それでは委員の方からのご意見を伺いたいと思

います。

(田中委員)

図画工作科の教科書は、2社から出版されています。

どちらも同じように、大変カラフルで、学習の楽しさが伝わるものになっています。

育成を目指す資質能力の3つの力からのめあてが設定してあって、指導の手がかりになりますし、子どもたち自身がゴールを見通して、活動に取り組めるように工夫されておりました。

また、どちらもデジタルコンテンツが充実しており、用具の使い方や参考作品を見て、子どもたちが主体的に学習を進めることができます。

SDGs や他教科等との関連なども配慮されていました。

どちらかと考えたときに、私は日本文教出版を選びたいと思います。

全体を通して見たときに、日本文教出版は写真の美しさという点で優っているように感じました。

特に、土や石、動植物、それから野外での造形活動の様子などは、美しさがより際立っていました。

指導に関しては、学習のめあてが細分化されていることを評価したいと思います。

開隆堂は3つなのに対し、日本文教出版は項目を細分化し、5つのめあてを設定しています。

同じ題材のもので比較してみますと、日本文教出版の方がより育てたい力が明確になっています。

これは、評価にも繋がるということで、特に経験の浅い先生にとっては、指導と評価の手がかりとなると思います。

また、日本文教出版では、表現や鑑賞のヒントがあったり、子どもの言葉の吹き出しで作品の説明や工夫点を説明したりと、働きかけが開隆堂版より多いので、どう取り組めばよいのか、子ども自身が容易に掴むことができます。

制作途中の子どもの表情の写真も多く掲載されていて、意欲的な活動に繋がると思います。

調査部会や学校からの報告書にも多くあったのですが、どの学年も巻末の材料や用具の扱い方を解説した「材料と用具のひきだし」が充実しているということが評価されていました。

特に、アートカードという小さなカードで、世界の美術作品に触れたり、それを使って、どの学年でも対話を通した鑑賞やゲームができたりするところが良いということでした。

楽しみながら鑑賞の力を育てることに繋がると思います。

地域関連としては、3、4年生上の土のライブラリーに八幡浜の土が使われていました。

美しい色の土でした。

また、愛媛県出身の工業デザイナーの山中俊治さんも紹介されていて、QRコードからインタビューを見ることが出来ます。

以上のことを総合して、日本文教出版の教科書が良いと思いました。

(教育長)

ありがとうございました。

日本文教出版を推薦されるご意見ですが、他いかがですか。

(緒方委員)

私も、2社ありましたので比べてみました。

どちらもQRコードからのコンテンツは充実しております。

開隆堂は用具の使い方や活動の参考になるものがあり、学習がどんどん進められるように構成されています。

また一方、日本文教は作り方の説明があり、繰り返し見ることができました。

教科書に対する印象なのですが、図画工作ではこれは大事なことではないかと思います。

私は、このキャラクターに注目してみました。が、キャラクターの登場など全体的に丸みがあって柔らかいというコメントもありました。

私も同じように感じました。

図画工作は描く、作るという実技の時間が多く、教科書を扱う時間が少ない教科だと思いますが、やはり子どもたちが自発的に手に取って見るような教科書が良いのではないかと思います。

開隆堂も日本文教もページ下に振り返りがあるのに加え、「あわせて学ぼう」は、繋がる学びということで、他教科との関連が示されております。

日本文教と開隆堂を比べてみると、開隆堂の方が、どのようなものが具体的にあるのかというの

が分かりやすく書かれていたと思います。

この段に関しましては、開隆堂の方が見やすいかなという具合に感じます。

図画工作は教科横断的な視点があることで、作ったり、描いたり、鑑賞したりする学習から、もっと学びの広がりが期待されるのではないかと思います。

以上のようなことで、私は開隆堂がいいのではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

開隆堂をご推薦されるということでございます。が、他ございませんですか。

(一同)

なし

(教育長)

では、ないようでございますから採決をしたいと思います。が、まず日本文教出版に賛成の方、挙手をお願いします。

—挙手1名—

(教育長)

開隆堂に賛成の方、挙手をお願いします。

—挙手4名—

(教育長)

それでは、日本文教出版が1票で、開隆堂出版が4票ということで、図画工作は開隆堂出版を採択することに決定いたします。

続きまして家庭科に移ります。

委員のご意見を伺いたいと思います。

(西本委員)

家庭科も2社から選びました。

まず私は、開隆堂出版がいいと思います。

家庭科は5、6年生に学ぶ教科になりますが、開隆堂は、巻頭ページに学習の流れを分かりやすくイラストで載せておりますが、そこには子どもたちが生まれてからの日々の生活において、家庭科で学ぶ内容がどんなふうに関わっていくのか

イラストで分かりやすく記載されておりまして、これを見ると、家庭科を学ぶことへの興味関心に繋がるのではないかなと思いました。

また、各単元の学習の流れは3ステップで進める構成となっております、見開きページと、大変見やすくレイアウトしていることで、作業しながらも確認しやすいのではないかなと思いました。

また、各ステップごとの振り返りがありまして、自己評価をすることで、またそれが日々の生活にも活かせる工夫となっているのではないかなと感じました。

随所に、安全に関する事項を安全マークで強調して記載されておりまして、食物アレルギーなど、自分や周りの人への配慮もできるようにしっかりと指導されているなど感じました。

SDGs に関して、環境学習として充実した記載がありまして、環境問題について生活の中で感じながら学習が学べるという配慮があるのではないかなと思いました。

地域につきましても、伊予さつま汁が各地に伝わる味噌料理として記載されておりまして、他の地域の伝統料理と一緒に学ぶことができ、それもまたより身近に感じられるのではないかなと思いました。

また最後に、味噌汁の作り方があると思うんですが、こちらが大変レイアウトが見やすく、保護者の視点から見ても、子どもに何も教えるよりは、一緒に見ながら家庭で作ってみたいなど思えるような記載の仕方がされていて、家庭に帰ってからの学習の繋がりができるのではないかなと感じた理由から、私は開隆堂出版がいいのではないかなと思いました。

(教育長)

ありがとうございました。

開隆堂出版を推薦されるということですが、他にご意見ないですか。

(一同)

なし

(教育長)

それではないようでございますので、採決をいたします。

開隆堂出版に賛成の委員は挙手をお願いいたします。

—挙手5名—

(教育長)

ありがとうございました。

開隆堂出版5票ということで、家庭科につきましては開隆堂出版を採択するという決定をいたしました。

続きまして、保健に移りたいと思います。

各委員のご意見を伺います。

いかがでしょうか。

(田中委員)

保健の教科書は5社から出版されております。

それぞれ工夫や特色があると思いました。

保健の学習は、3、4年生で8時間、5、6年生で16時間が配当されています。

中学年では、それぞれ4時間という短さです。

実施の間隔が空くといったことも考えられますので、子どもたちにとって分かりやすい形で学習を行うことが大切ではないかと思いました。

東京書籍版は、全ての学習が「1気づく・見つける」「2調べる・解決する」「3深める・伝える」「4まとめる」という4ステップの流れになっています。

この4段階は、問題解決の流れであり、他の教科でも同じような形で学習していますので、子どもたちにとっては分かりやすく、取り組みやすいのではないかと思いました。

特に、ステップ1では、課題を自分ごととして見つけられるように、身近な場面設定を工夫して主体的な学びを、ステップ3の「深める・伝える」では、分かったことを説明する活動により、さらに深い理解を促すよう配慮されています。

基本、1時間4ページ構成で、ステップ1の「気づく・見つける」のページを開けると、学習の課題があるというページ割りも良いと思いました。

どの出版社の教科書もノートとして書き込めるようになっており、学習の足跡を残す工夫がありました。

時間数が少ない保健学習では、必要なことだと思います。



学校からの報告書にもあったのですが、書き込む分量や枠の大きさなどが、東京書籍版は発達段階に合っていると思いました。

また、東京書籍版では、外国人や車いすの子どもなど、個性豊かなキャラクターが多くページで登場し、尊重し支え合いながら学ぶということが示されています。

3、4年生の体の成長と私の学習で「性と自分らしさ」という資料が使われていました。

性の多様性を分かりやすく示したもので、子どもの自己肯定感を育むという観点からも良いと思いました。

以上のようなことから、東京書籍版が良いのではないかと思います。

(教育長)

東京書籍をご推薦するという意見でございましたが、他にないでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

私から発言させていただきたいと思いますが、私はG a k k e nを支持したいと思います。

いずれの教科書も、学習の流れが児童にとって理解しやすいように工夫をされておりまして、また、今日的な課題を題材として捉えることで、児童が興味を持って学習に取り組むことができるというふうに感じました。

そうした中で、まず各教科書が学習課題を表示する中で、G a k k e nと東京書籍の2社は各単元の初めに大きく学習の課題の表示がございました。

上と下の違いがありましたが、他社と比べて、はっきり分かる方がいいなというふうに思いました。

また、3、4年の最初の単元である健康な生活では、チェックシートを掲載しているのがG a k k e nと文教社で、保健の学習にスムーズに入っていける工夫であるなと思いました。

そして同じく3、4年の1日の生活の仕方で、早寝早起き朝ご飯のポスターを表示してあるのがG a k k e nだけで、同じ3年生が作成したポスターを表示することで、児童への興味関心が高ま

るのではないかなというふうに思います。

また、健康を守る活動で、学校で関わるいろいろな人の説明がございましたが、東京書籍には、現在松山市では配置されていないスクールソーシャルワーカーが表示されておりまして、松山で使う教科書としてはどうかなというふうに思います。

そして、5年6年の教科書の初めに、心の健康の単元がございますが、どの教科書もそれぞれ工夫をして表示されておりまして、5年生頃になりますと、ちょうど心の健康不安から不登校傾向が増加し始める頃で、ページ数の多寡で取り組みの軽重をはかることができるものではないと思いますが、G a k k e nが多くページを割き、かつ、質量ともに適切ではないかなと思いました。

以上のことから、私はG a k k e nを支持させていただきます。

他いかがでしょうか。

(田中委員)

発言を訂正させていただきます。

冒頭で保健の教科書は5社と申しましたが、6社でしたので、訂正いたします。

(教育長)

それでは、採決をいたします。

まず最初に、東京書籍に賛成の委員は挙手をお願いいたします。

—挙手2名—

(教育長)

続きまして、G a k k e nに賛成の方は挙手をお願いいたします。

—挙手3名—

(教育長)

東京書籍2票、G a k k e n3票ということで、保健につきましてはG a k k e nを採択することに決定をいたしました。

それでは続きまして、外国語に移りたいと思います。

委員のご意見をお願いいたします。

(河原委員)

学習指導要領では、小学校第5学年と第6学年の児童に対して、外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造等を理解し、実際のコミュニケーションにおいて自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を育成することが重視されています。

また、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などの有効活用も求められています。

これらの観点を踏まえて、各社の教科書を比較し、東京書籍の教科書が適すると評価いたしました。

まず、実際のコミュニケーションにおける外国語の活用の点では、外国語の発音の学習が重要です。

特に、英語話者による実際の発音を何度も聞ける機会を確保できることが望ましいと思います。

この点、東京書籍の教科書では、単元内の全ての会話場面にQRコードが用意されており、スマートフォン等で読み取ると、単元の内容とリンクした音声動画がWeb上で再生できるようになっています。

同様の工夫は、他社の教科書でも行われていましたが、東京書籍のものは、ネイティブスピーカーの実写動画なのに対して、他社のものはアニメーション動画になっています。

外国語の発音を学ぶ際には、話者の口の動きを真似ることが大変参考になるため、東京書籍の動画の方が効果的だと思いました。

また、Web上の音声動画データの配置順序が東京書籍のものは教科書の構成と一致していましたが、他社のものは必ずしも一致しておらず、Web上で再生すべき音声動画を見つけにくいところがありました。

自分の考えや気持ちを伝え合うという点では、東京書籍の教科書では、各単元が「Starting Out」「Your Turn」「Enjoy Communication」「Over the Horizon」の4段階で構成されています。

「Starting Out」で相手の発言を聴くリスニングを、「Your Turn」で自分が話すスピーキングを、「Enjoy Communication」で一定のテーマに基づいた会話を練習できるようになっており、語彙や表

現を学びながら自然と基礎的な会話力を身につけられるように構成されている点に工夫を感じました。

最後の「Over the Horizon」では、実写動画を視聴しながら外国文化に親しめるような内容も用意されています。

さらに、語彙や表現、文構造の理解を深める手段として、東京書籍では教科書とは別に専用の冊子を用意しています。

これも単に単語と意味の列挙とにならないようによく工夫されていました。

英単語を「食べ物」「動作など」等のカテゴリーに分類して紹介しているのですが、「食べ物」のところでは様々な味覚の表現をセットにして配置し、「動作など」のところでは過去の表現や行動頻度の表現をセットにして配置するなど、語彙を様々な表現や文構造と結びつけて理解できるように構成されています。

このような冊子は、開隆堂の教科書でも用意されており、同様の工夫がなされていました。

調査部会の報告を拝見すると、開隆堂のものを高く評価しているように見受けられましたが、私としては、これまで申し上げた点を踏まえて、東京書籍の教科書を推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

東京書籍を推薦するというご意見でございましたが、他にございませんでしょうか。

(緒方委員)

外国語・英語は6社がありました。

それぞれの教科書会社が様々な工夫をし、より良い教科書を作ろうと努力している感がありましたが、外国語・英語の教科書はまだ歴史が浅く、懇話会の記録を見ますと、「大きな差はない」「どれもいいなと思った」「1冊にするのは難しい」という評価感想がありましたが、これはやっぱり正直な感想ではないかなと思います。

私も基本そのようなところを感じました。

そのような中、小学校3・4年生の外国語活動を受けて、そして小学校5・6年の教科英語をどのように繋いでいこうとしているのか、さらに、中学校英語に発展させようとしているのかが、5・6年の教科書のポイントになるのではないかと

と思います。

6社ありましたが、3社について少し述べてみたいと思います。

東京書籍は、書き込みができるドリル的になっています。

書くことも重視している言語活動は、児童が普段体験するものになっております。

QRコードからのコンテンツも充実しております。

書く活動は5年生から意識されており、書く欄も大きく、文字に慣れ親しむことを意図していることは評価できます。

また、「My Picture Dictionary」は学習した単語の定着に役立つと思われました。

開隆堂は、3・4年生で学習したことから始まり、中学に繋がるような構成になっています。

6年生では最初に、話したり聞いたりする内容が多いですが、後半には書く力を付けることが意識されています。

音声から文字の繋がりを重視した構成になっています。

英語の授業では、何がどのくらいできるようになったかという積み重ねが大切だと思いますが、「CAN Doチェック」というのがありまして、巻末でまとめてチェックできるようになっています。

出てくるイラストも統一性があり、見やすい教科書でした。

QRコードからのデジタルコンテンツはほのぼのとしたアニメーションで、子どもたちにとって親しみやすいと思います。

英語の授業の楽しさの1つに外国の人とのコミュニケーションがあると思います。

しかし、授業の中だけで単語が定着するのは難しいと思います。

そこで、開隆堂は学習した単語をワードブックとしてまとめ、使いやすいようにして子どもたちに提示をしています。

教育出版は、小学校3、4年生で使うレッツトライと形式が似ていて使いやすいという評価がありました。

また、シンプルな紙面で分かりやすい構成になっているという報告もありました。

QRコードからのコンテンツは動画音声も豊富

で分かりやすく、また、松山の坊っちゃん列車や今治のタオルなどが取り上げられ、親しみやすさがあります。

6年生の最後は、中学校生活への期待を持たせる内容になっていますが、もう少し書く活動があってもいいのではないかなと感じました。

以上3社についてコメントいたしました。総合的に考えまして、私は開隆堂が良いのではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他ないですか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは採決をいたします。

まず最初に、東京書籍に賛成の方は挙手をお願いします。

—挙手2名—

(教育長)

続きまして、開隆堂に賛成の方は挙手をお願いします。

—挙手3名—

(教育長)

東京書籍が2票、開隆堂が3票ということで、外国語につきましては開隆堂を採択することに決定をいたしました。

それでは、最後になりますが、道徳に移りたいと思います。

各委員のご意見を伺いたいと思います。

(田中委員)

道徳は、どの教科書もいじめや情報モラル、SDGsなど、現代的な課題に関する教材が充実されており、関連するいくつかの教材を組み合わせることでユニットとして重点的に指導する工夫も行われていました。

また、QRコンテンツも充実しており、音声朗

読やスライドショー、それからデジタルコンテンツなど、ICTを活用して、子どもの特性に合わせた学習を進められるようになっていきます。

その中でも、私は東京書籍版が良いのではないかと思います。

私は、自他の生命を大切にすること、生きることの根幹だと思っています。

どの学年も生命の尊さに関する教材が3教材以上掲載されているのは、東京書籍を含めて4社ありました。

長期休暇明けは子どもの自殺が増えることが非常に憂慮されているのですけれども、東京書籍版では、9月初めに生命尊重を考えるユニットとして設定しています。

配慮があることを感じました。

また、調査部会や学校からの報告書にも多くあったのですが、自分の考えを可視化、見える化する思考ツールが工夫してあることも東京書籍版の特徴です。

気持ちを数字で表す「心の物差し」、色の分量で気持ちを表す「心のメーター」などの紹介が巻末につけられていたり、QRコンテンツでも利用できたりして、自分の心を見つめたり、友達と比べたりすることを促しています。

4年生以上には教科書の巻末に2つの色の違う円を組み合わせて気持ちを促す心情円が付録として付いていて、活用できるようにもなっています。

活発な意見の交流や考えの深まりが期待できると思います。

昔から使用されている定番教材と、時代に合った新しい教材のバランスも、東京書籍版は優れていると感じました。

5年に「泣いた赤鬼」があるのですが、これも定番教材の1つです。

著名な漫画家が挿絵を担当して新鮮味のあるものになっていました。

他の教材の挿絵も親しみやすいものが多く、子どもたちの考えを助けることができます。

また、見開きでダイナミックなビジュアル教材を低学年中心に掲載されています。

郷土に関するものでは3年生で、郷土愛の教材「そびえたつ伊予松山城」、また、大洲城やみきゃん、6年生では松山市出身の写真家松本紀生さんの美しいオーロラの写真が取り上げられていま

す。

また、5年生でいじめに関する教材の後に子どもの権利条約、全盲でありながら、折り紙で世界の子どもの勇気づけた「折り紙大使－加瀬三郎」の後に世界人権宣言が取り上げられていたことも印象的でした。

以上のようなことから東京書籍の教科書が良いのではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

東京書籍を推薦するというご意見ですが、他にご意見ございますでしょうか？

(西本委員)

私はG a k k e n がいいなと思いました。

まず学習指導要領の4つの視点である「私のこと」、「あなたと私」、「社会と私」、「命や自然と私」と私を分かりやすくマークで示されています。

このことは児童が主体的に学習のねらいを感じながら学べる工夫であるのではないかなと感じました。

また、写真やイラストがいろいろ鮮やかで大変興味を引くレイアウトになっておりました。

特に保護者としても、子どもに特に考えて見つけてほしい命を大切にすること、また他者を思いやるのが、「心のパスポート」という特設ページを持って丁寧に展開されておりまして、その中でも特にいじめ防止への取り組みも、6年間を通して学び続けることができるようになっておりました。

さらに、各界で活躍されている人物もたくさん登場しておりましたので、それは子どもたちにとって、将来に対する夢を持って、学び続けられるということではないのかなと思いました。

以上の理由から私はG a k k e n がいいなと思いました。

(教育長)

ありがとうございました。

G a k k e n を推薦するというご意見でしたが、他にございませんでしょうか。

(緒方委員)

道徳は6社がありましたが、各社、道徳教育に資するような資料が教材として取り上げられておりました。

それぞれ特色のある道徳の教科書になっていると感じました。

そこで簡単に1社ずつコメントしてみますと、東京書籍は学習の進め方が大変分かりやすく考えるためのツールが巻末にありました。

QRコードも動画が視聴できます。

教育出版は学び方で「考えよう」、「深めよう」、「つなげよう」という学習の進め方を提示しています。

「考えよう」では、道徳の時間でよく使う話し合いとか、役割演技を通して考えるというところまで説明がありました。

最後には自分のこととして考え、今後の生活にどう活かすかという実践にまで高めようとしております。

資料にも「青い目の人形」「和田重次郎」など郷土に縁のあるものが取り上げられております。

光村図書は話し合うためのコツが丁寧に説明されています。

巻末の一言感想も1年通じての学びが振り返られます。

日本文教は道徳ノートがついており、学んだことの蓄積ができます。

また、資料ごとに導入として「考えてみよう」、今後に向けて「見つめよう・生かそう」ということが載せられていました。

QRコードからのコンテンツも豊富です。

光文書院は思考ツールの紹介があり、ロイロノートを使っている松山の子どもたちにはまた学びが深まると思います。

現在の課題のマークだったり、SDGsの視点があったり、子どもの興味を引くような資料が多かったり、教科書内に書き込めるスペースもあります。

G a k k e nは命の大切さを強調し、松山の潮見小学校の実話の目の見えない犬ダンの話も掲載されています。

全ての出版社の教科書において言えることですが、以前の特別の教科の道徳になる前の資料に比べて内容的に大変充実しております。

しかし、考え議論する道徳が言われるようになってから、話し合う授業に軸足が置かれるように

なりましたが、これはこれで意義のあることですが、ややもすると特別活動のような授業にならないかと危惧するところでもあります。

子どもたちが感じたり感動したりすることで育つ、道徳的な心情も大切にしたいと思います。

現在松山市では教育出版の教科書を使用しており、学校からの報告書を読んでも、全体的に文章が読みやすい、振り返りがしやすい児童の実態に応じて指導しやすいという評価がありました。

また、学校訪問でも実際に道徳の授業を見ましたら、各学校では教育出版の教材による教材研究も現在進んでおりますので、私は教育出版が良いのではないと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

教育出版を推薦されるというご意見でございますが、他にございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは意見も出尽くしましたので、採決をしたいと思います。

まず最初に、東京書籍に賛成の人は挙手をお願いいたします。

—挙手3名—

(教育長)

G a k k e nに賛成の方。

—挙手1名—

(教育長)

教育出版に賛成の方。

—挙手1名—

(教育長)

東京書籍3票、G a k k e n 1票、教育出版1票ということで、道徳につきましては東京書籍を採択することに決定をいたしました。

それでは引き続き、次の日程について取り上げ

ますが、日程第3 報告第15号「松山市青少年育成支援員の退任について」を議題といたします。

千原教育支援センター事務所長から説明を求めます。

(千原所長)

教育支援センター事務所です。

よろしくお願いいたします。

報告第15号「松山市青少年育成支援員の退任について」ご説明させていただきます。

お手元の資料13ページをお願いします。

青少年の非行防止及び健全育成の推進を目的に、市内各地域で巡回活動などを行う松山市青少年育成支援委員は、松山市教育支援センター条例施行規則第4条の規定により、教育委員会が委嘱しています。

今回、教育支援センター事務所の職員1名が令和5年7月31日付で自己都合により退職したことに伴い、松山市青少年育成支援員を退任しましたので、松山市教育委員会事務員規則第2条第2項の規定に基づき報告するものです。

以上で説明を終わります。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件に関し、何かご意見等ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは意見等ないようでございますが、報告第15号「松山市青少年育成支援委員の退任について」ご異議ございませんか。

(一同)

異議なし

(教育長)

ご異議なしと認めます。

次に、日程第4 説明事項「令和5年度 全国学力・学習状況調査 松山市立小中学校の調査結果」を議題といたします。

井上学校教育課長から説明を求めます。

(井上課長)

学校教育課の井上です。

よろしくお願いいたします。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、ご説明いたします。

資料15ページをご覧ください。

本調査の概要ですが、今年度は、小学校で国語・算数、中学校で国語・数学・英語が実施されました。

16ページをご覧ください。

教科に関する調査結果は、全国の平均正答率と比較したところ、松山市の平均正答率は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同じ状況でした。

続いて、17ページから20ページについて説明します。

こちらは、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査における本市の状況について示したものです。

22ページには、考察と今後の方向性を示していますので、併せてご覧ください。

17ページから18ページは、全国の平均値と比較して、本市の良好な状況を示しています。

良好な質問の1つ目は、小学校の設問項目29、中学校の設問項目33の「過年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問です。

この質問に「週1回以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校では90.7%で全国平均をやや上回り、中学校では94.0%で全国平均を大きく上回りました。

引き続き、1人1台端末を効果的に活用するとともに、協働的な学びを大切にした授業改善を行い、学習指導要領に示された、主体的・対話的で深い学びを実現させ、身に付けた力を様々な課題への対応に生かそうとする児童生徒の育成に努めていきたいと思っております。

2つ目は、小学校の設問項目25、中学校の設問項目29の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問です。

この質問に「当てはまる」「どちらかといえ、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が全国平均を上回りました。

また、中学校の設問項目32の「日本やあなたが

住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が全国平均をやや上回ったことから、本市の児童生徒に郷土への愛着や誇りが育まれていることが分かりました。

次に、全国の平均値と比較して課題が見られる質問です。

18ページの小学校43と20ページの中学校57から62をご覧ください。

「教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「教科の授業の内容はよくわかりますか」などの、学習に対する興味・関心に関する質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、中学校の国語においては全国を上回り、小学校の算数では全国平均とほぼ同じ状況でしたが、小学校の国語、中学校の数学、英語では全国を下回りました。

今後は、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに、学習したことを日常生活と関連付けるなど、教科横断的な視点をもって授業改善を図りたいと思います。

最後に、21ページをご覧ください。

本市の目標及び指標についてです。

本市の指標として「1日1時間以上の家庭学習の時間を確保している割合」を76%以上としており、小学校では68.5%と本市の指標を大きく下回っていましたが、全国と比較した場合には大きく上回った状態を維持していました。

中学校では62.3%と本市の指標を大きく下回っており、全国と比較した場合にもやや下回りました。

今後は、児童生徒の自主性を育む方針は継続しながらも、家庭学習においても1人1台端末を効果的に活用することなどで、更なる学習習慣の確立や基礎・基本の定着に努めていきたいと思えます。

なお、これらの結果については、本定例会後ホームページにて結果を公表しますが、学校名を明らかにした結果については、例年と同様に公表しないこととします。

以上で説明を終わります。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件について何かご意見ご質問等ございましたでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

本日予定の日程は以上となりますが、委員の皆様方から、何かご意見とかご質問等ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

では、ないようでございますので、以上をもちまして、本日予定の日程は終了いたしました。

これもちまして、令和5年第7回定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

(横山次長)

ご起立をお願いします。

一同礼。